

## データベース部便り

(財) 高度情報科学技術研究機構  
データベース部長

衛藤 基邦

### 1. はじめに

原子力に関する情報をインターネットで入手できるように構築された原子力図書館「げんしろう」は、原子力百科事典ATOMICA、「キッズデータベース」、「げんしろうクイズ」、及び「キッズコーナー」によって構成されている。その運営は文部科学省の委託を受けて、独立行政法人 科学技術振興機構（JST）が行っている。

当財団のデータベース部はJSTからの委託を受けて、原子力百科事典ATOMICAデータベースのコンテンツを制作させて頂いている。具体的には、新規データの作成、既存データの更新および用語辞書の整備を行うとともに、JSTに協力して本データベースに関する種々の問い合わせに対応している。また、「キッズデータベース」の立上げの際(平成16年度)、そのコンテンツ制作について協力させて頂いたが、平成17年度以降も、その内容の充実のための作業を実施している。ここでは、ATOMICAデータベース及びキッズデータベースに関連したコンテンツ制作の現状を報告する。

### 2. 原子力百科事典ATOMICAのためのデータ作成更新

ATOMICAは18の大分類項目の下に中項目、小項目、個々のデータタイトルという4層から構成されている。また、用語辞書デー

タベースには、ATOMICAの個々のデータタイトルとは独立してアクセスが可能である。

- 1) 新規データの作成：平成18年度は新規に100件のデータを作成するべく、現在、作業中である。タイトル選定作業はほぼ終了し、データ作成、アップロード作業等が順調に進められている。平成18年9月末現在、46件の登録が終了している。本年度末には新規の100件が加えられ、データ件数は総約2700件となる予定である。
- 2) 既登録データの更新：平成18年度は200件のデータを更新する予定である。更新を行うデータについては、高速炉、高温ガス炉、放射性廃棄物・廃炉関係、エネルギー問題等、更新の必要性の高いデータについて検討し、タイトル選定作業をほぼ終了し、現在、更新作業を進めている。平成18年9月末現在、99件のデータを更新した。
- 3) 用語辞書：今年度の新規用語辞書登録予定は、200語である。主として原子力百科事典に登録された新規データから用語辞書に登録すべきと考えられる用語を抽出し、簡潔かつ正確な解説の作成に努めている。9月末現在、約90語を新規登録し、用語辞書登録語総数は約2,640語となった。今後も、JSTの指示に応じて、タイトル選定、データ加工作業を的確に実施できるよう努力したいと考えている。なお、今年度前半にATOMICAトップページのPAメール等を

通じて寄せられた質問、意見等は約25件であった。

### 3. キッズデータベース関連データの作成

キッズデータベースについては、平成17年度に続き、新規データ200件を追加作成する予定である。各データは、1件1ページ、字数約400字以下の文字データと1から2枚の図表データによって構成されている。新規追加データの分野別（エネルギー、放射線、原子力）内訳件数は、エネルギー60件、放射線60件、原子力80件であり、この結果、平成18年度末にはデータ件数は総計800件（分野別：エネルギー180件、放射線250件、原子力370件）となる予定である。「先生方への解説データ」は前年度新たに立ち上げられ、100件が収録されているが、平成18年度はさらに新規データ100件を追加するべく、作業を進めている。この解説データは、キッズデータの項目のうち、

特に重要なものについて先生方を対象にして、さらに詳しい解説を盛り込むものである。分量はA4版換算で2から3ページ、図表を用いて分かりやすいデータとすることを目指している。また、前年度に新規作成されたキッズ版用語辞書については、200語を追加し、収録語数を700語とする予定である。

なお、昨年に続き、8月22日に開催された第5回科学の祭典・東海村子ども科学広場「おもしろ科学で遊ぼう」(東海村子ども科学広場実行委員会主催、開催場所：テクノ交流館リコッティ)に「げんしろウイズにチャレンジ」というタイトルでJSTと当財団で共同出展し、多くの参加者にインターネットによる科学クイズを楽しんでもらった。クイズにチャレンジした人数は、子どもが約380名、付き添いの方々等が約200名であった。この人数は昨年よりもさらに増えている。当日のブースのスナップ写真を示す。



第5回科学の祭典・東海村子ども科学広場に出展した「げんしろウイズにチャレンジ」のスナップ写真